

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第28週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (28週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 4 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例。
4 類感染症：日本紅斑熱 1 例。5 類感染症：急性脳炎 1 例、百日咳 6 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	70 歳代	女	肺結核	—
		都城	80 歳代	男	肺結核	痰
		延岡	40 歳代	女	肺結核	症状なし
		日向	70 歳代	男	肺結核	悪寒、体重減少、全身倦怠感、低ナトリウム血症による失神
3類	腸管出血性大腸菌感染症	都城	0~4歳	女	—	腹痛、血便、O157(VT型不明)
4類	日本紅斑熱	日南	80 歳代	女	—	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常
5類	急性脳炎	宮崎市	0~4歳	男	病原体不明	発熱、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加
		宮崎市	10 歳代	女	—	持続する咳、呼吸苦
	百日咳	延岡	5~9歳	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み
		日南	5~9歳	女	—	持続する咳
			5~9歳	男	—	持続する咳
			40 歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み
		高鍋	40 歳代	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

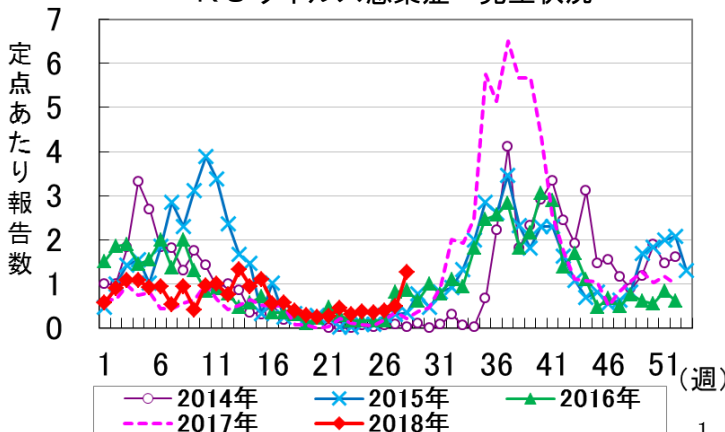
・定点医療機関からの報告総数は 846 人(定点当たり 26.8)で、前週比 101%とほぼ横ばいであった。なお、前週に比べ増加した主な疾患はRSウイルス感染症、咽頭結膜熱及びヘルパンギーナで、減少した主な疾患は感染性胃腸炎と流行性耳下腺炎である。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

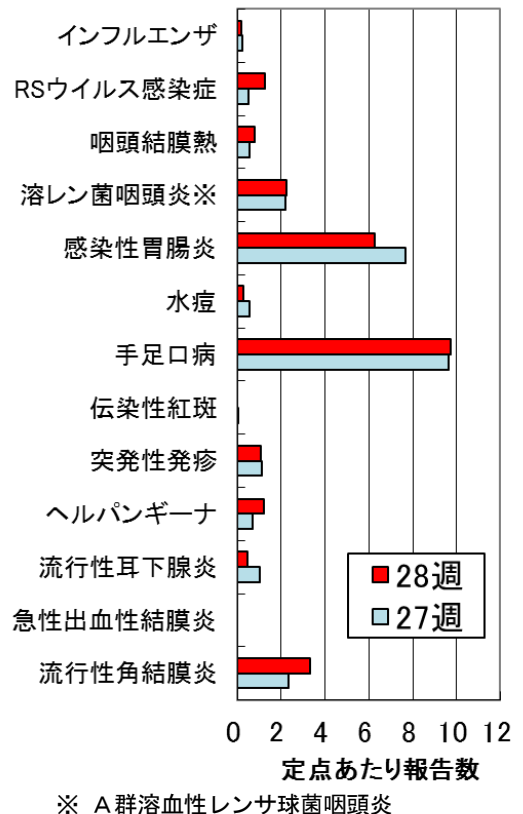
【RSウイルス感染症】

報告数は 44 人(1.3)で、前週比 259%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値*(0.38)の約 3.3 倍である。中央(3.0)、延岡、日向(各 2.0)保健所からの報告が多く、年齢群別では 2 歳以下が全体の約 9 割を占めている。

RSウイルス感染症 発生状況



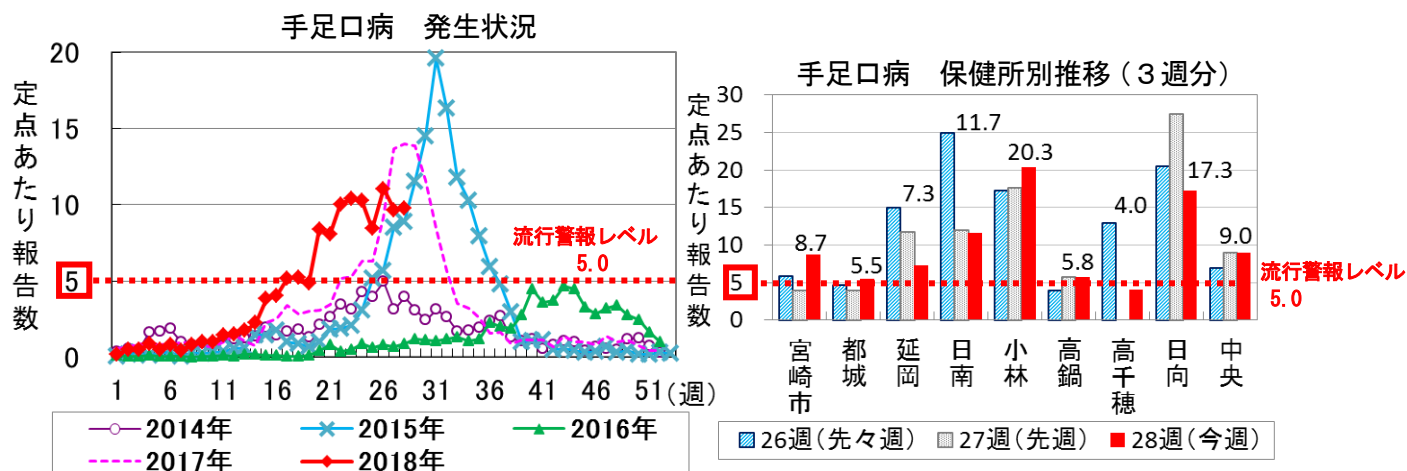
《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

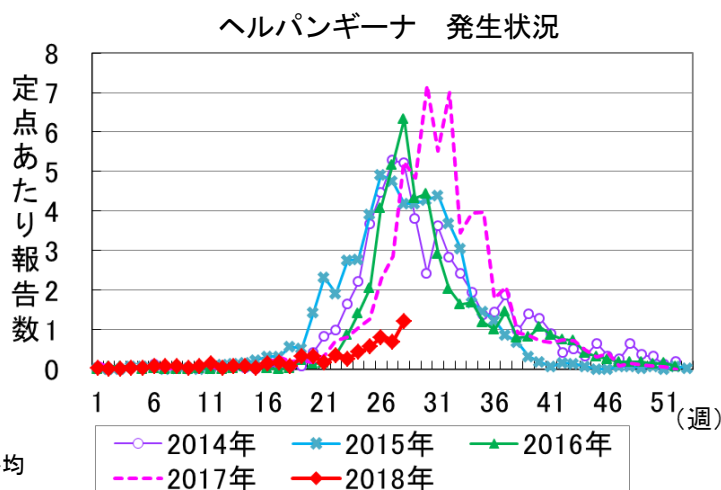
【手足口病】

報告数は341人(9.7)で、前週比101%とほぼ横ばいで、例年同時期の定点あたり平均値*(6.9)の約1.4倍である。小林(20.3)、日向(17.3)、日南(11.7)保健所からの報告が多く、年齢群別では1~4歳が全体の約8割を占めている。



【ヘルパンギーナ】

報告数は42人(1.2)で、前週比175%と増加したが、例年同時期の定点あたり平均値*(4.3)の約0.3倍である。小林(4.0)、延岡(2.0)保健所からの報告が多く、年齢群別では1~2歳が全体の約6割を占めている。



* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

★基幹定点からの報告★
報告なし。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	手足口病(8.7)
都城	手足口病(5.5)
延岡	手足口病(7.3)、流行性角結膜炎(9.0)
日南	手足口病(11.7)、流行性耳下腺炎(4.0)
小林	手足口病(20.3)
高鍋	手足口病(5.8)
高千穂	なし
日向	手足口病(17.3)
中央	手足口病(9.0)

※流行警報レベル開始基準値※

- ・手足口病(5.0)
- ・流行性角結膜炎(8.0)

※流行注意報レベル基準値※

- ・流行性耳下腺炎(3.0)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成30年7月17日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
<i>Salmonella</i> Typhimurium (O4:i:-)	0～4歳	男	2018.06.25	サルモネラ腸炎、発熱(38.6℃)、水様性下痢、腹痛	便	2018.07.05
EPEC (O25:HUT)	20歳代	男	2018.06.30		便	2018.07.02
EPEC (OUT:HUT)	20歳代	女	2018.06.30		便	2018.07.02
EAggEC (O86a:HNM)	5～9歳	女	2018.06.30	細菌性腸炎、腹痛	便	2018.07.05

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
エコーウイルス9型	0～4歳	女	2018.05.02	不明の発疹症、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2018.07.10
エコーウイルス9型	0～4歳	女	2018.05.02	エンテロ疑い、37.7℃、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2018.07.10
エコーウイルス18型	0～4歳	男	2018.05.23	ウイルス性発疹、発疹	咽頭ぬぐい液	2018.07.10
エコーウイルス18型	0～4歳	男	2018.04.24	発疹症、39℃、発疹(丘疹、紅斑)	咽頭ぬぐい液 便(再掲)	2018.07.10
ヒトヘルペスウイルス6	0～4歳	男	2018.05.16	ウイルス感染症、40.0℃、熱性けいれん、 上気道炎、ショック症状(循環不全)	髄液	2018.07.12
単純ヘルペスウイルス1型	0～4歳	男	2018.05.22	ヘルペス、手足口病、口内炎、発疹	咽頭ぬぐい液	2018.07.12
サイトメガロウイルス	0～4歳	男	2018.04.17	川崎病後の肝機能障害、40℃、 上気道炎(咽頭炎)、リンパ節腫脹	咽頭ぬぐい液	2018.07.12
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	女	2018.06.04	インフルエンザA型、40.4℃、下気道炎(気管支炎)	咽頭ぬぐい液	2018.07.04

○乳児1名の髄液からヒトヘルペスウイルス6 (HHV6)が検出された。HHV6の初感染は乳幼児期の突発性発疹の原因となり、一般的に予後良好である場合が多いが、稀に脳炎や脳症、高熱による痙攣などの中枢神経系合併症を起こす。HHV6は単核球や唾液腺に潜伏感染するため、起因ウイルスと同定するには血漿や髄液からウイルスDNAを検出することが重要となる。

🇯🇵 全国2018年第27週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第27週）

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	358例			
3類感染症	細菌性赤痢	1例	腸管出血性大腸菌感染症	79例	パラチフス 1例
4類感染症	E型肝炎	13例	A型肝炎	32例	重症熱性血小板減少症候群 1例
	つつが虫病	1例	デング熱	3例	日本紅斑熱 5例
5類感染症	レジオネラ症	75例			
	アメーバ赤痢	15例	ウイルス性肝炎	8例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 24例
	急性弛緩性麻痺	3例	急性脳炎	10例	クロイツフェルト・ヤコブ病 3例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	12例	後天性免疫不全症候群	13例	侵襲性インフルエンザ菌感染症 3例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	20例	水痘(入院例) 3例
	梅毒	106例	播種性クリプトコックス症	3例	破傷風 1例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例	百日咳	136例	風しん 2例
	麻しん	10例			

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比95%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はヘルパンギーナで、減少した主な疾患は咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び感染性胃腸炎である。RSウイルス感染症、流行性角結膜炎は例年より多い状況が続いている。

ヘルパンギーナの報告数は4,653人(1.5)で前週比147%と増加したが、例年同時期の定点当たり平均値*(2.3)の約0.7倍である。佐賀県(8.1)、新潟県(7.7)からの報告が多く、年齢群別では1～4歳が全体の約8割を占めている。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

月報告対象疾患の発生動向 <2018年6月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は32人(2.5)で、前月比178%と増加した。また、昨年6月(3.1)の80%である。

《疾患別》

○性器クラミジア感染症：報告数22人(1.7)で、前月の2.2倍、昨年6月の約0.9倍である。

20歳代が全体の約半数を占めている。(男性10人・女性12人)

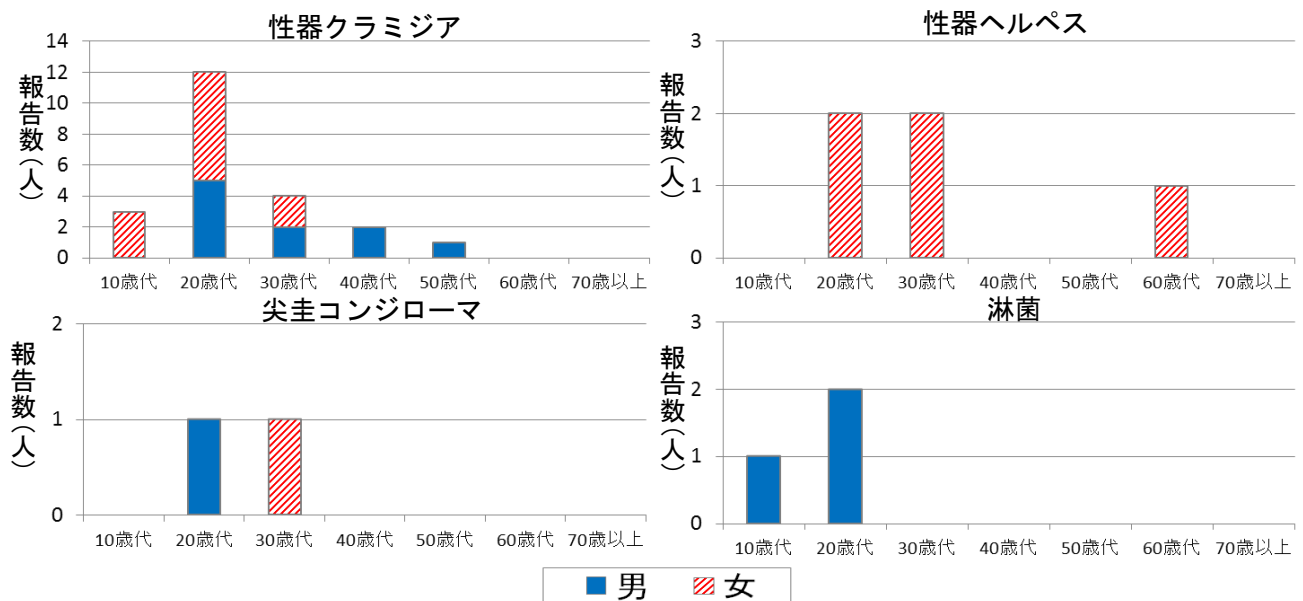
○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数5人(0.38)で、前月の約1.3倍、昨年6月と同率である。

(女性5人)

○尖圭コンジローマ：報告数2人(0.15)で、前月と同率、昨年6月の2倍である。

(男性1人・女性1人)

○淋菌感染症：報告数3人(0.23)で、前月の1.5倍、昨年6月の約0.3倍である。(男性3人)



【全国】 定点医療機関総数：986

定点医療機関からの報告総数は4,159人(4.2)で、前月比98%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,211人(2.2)で前月比100%、性器ヘルペスウイルス感染症779人(0.79)で前月比98%、尖圭コンジローマ527人(0.53)で前月比102%、淋菌感染症642人(0.65)で前月比90%である。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は17人(2.4)で、前月比100%と同率だった。また、昨年6月(3.0)の81%である。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数17人(2.4)で、前月と同率、昨年6月の約0.9倍である。70歳以上が全体の約7割を占めている。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：480

定点医療機関からの報告総数は1,460人(3.0)で、前月比94%と減少した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,307人(2.7)で前月比95%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症147人(0.31)で前月比86%、薬剤耐性緑膿菌感染症6人(0.01)で前月比50%である。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2018年 第28週(07月09日～07月15日)

疾病名		第27週	第28週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	14	10		10							
	定点あたり	0.24	0.17	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	17	44	17	3	8	2		3		8	3
	定点あたり	0.49	1.26	1.89	0.50	2.00	0.67	0.00	0.75	0.00	2.00	3.00
咽頭結膜熱	報告数	20	28	7	2	8	4	1	6			
	定点あたり	0.57	0.80	0.78	0.33	2.00	1.33	0.33	1.50	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	77	79	31	10	14	10	7	4		2	1
	定点あたり	2.20	2.26	3.44	1.67	3.50	3.33	2.33	1.00	0.00	0.50	1.00
感染性胃腸炎	報告数	268	219	42	37	9	28	35	33	4	13	18
	定点あたり	7.66	6.26	4.67	6.17	2.25	9.33	11.67	8.25	4.00	3.25	18.00
水痘	報告数	20	9	6			1	1	1			
	定点あたり	0.57	0.26	0.67	0.00	0.00	0.33	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	338	341	78	33	29	35	61	23	4	69	9
	定点あたり	9.66	9.74	8.67	5.50	7.25	11.67	20.33	5.75	4.00	17.25	9.00
伝染性紅斑	報告数	2										
	定点あたり	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	39	38	13	8	4	5		4		3	1
	定点あたり	1.11	1.09	1.44	1.33	1.00	1.67	0.00	1.00	0.00	0.75	1.00
ヘルパンギーナ	報告数	24	42	9	3	8	2	12	4		4	
	定点あたり	0.69	1.20	1.00	0.50	2.00	0.67	4.00	1.00	0.00	1.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	35	16		2	2	12					
	定点あたり	1.00	0.46	0.00	0.33	0.50	4.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜 炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	14	20	11		9						
	定点あたり	2.33	3.33	3.67	0.00	9.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:58、小児科定点:35(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2018年第1週～28週)

2類感染症	結核	94例(4)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	10例(1)				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	22例	重症熱性血小板減少症候群	8例
	つつが虫病	1例	日本紅斑熱	6例(1)	レジオネラ症	4例
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	7例
	急性脳炎	6例(1)	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	4例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	19例
	水痘(入院例)	1例	梅毒	1例	播種性クリプトコックス症	3例
	破傷風	2例	百日咳	186例(6)	風しん	1例

()内は今週届出分、再掲